



戦前中国の風俗絵はがきの世界

(近藤恒弘氏 寄贈)

支那に於ける民衆風俗 第四輯

菊池敏夫 (非文字資料研究センター 研究員)



図1 支那における民衆風俗 第四輯
POPULAR CUSTOM OF CHINESE



図2 TRADE MARK TAISHO Made in Wakayama

第四輯は、第三輯と比べて、テーマの統一性に欠ける。かつ、「炎天下に働く苦力」(図6)と「調子難し一輪車」(図5)の2枚は、第二輯と重複している。

表紙の女性が着ているのは、漢族農民の伝統的な女性服である(図1)。中国近代の女性ファッションという



図3 調らべ悲しき葬列
SCENE OF FUNERAL PROCESSION.



図4 街から街へ廻る糖球兒
THE PEDLAR OF WHEAT-GLUTEN WAN-
DERING FROM STREET TO STREET.

と旗袍(チーパオ)を採り上げることが多いが、それは1920年代以降における都市の富裕層を中心とした話で、この上衣と褲子(ズボン)の上下こそが民衆の間で定着した風俗であり、女性ファッションの代表である。

中国近代の葬式に日本の葬式のようなしめやかさはな



図5 調子難し一輪車
PICTURE OF A WHEEL-BARROW AT MANCHU.



図6 炎天の下に働く苦力
PICTURE OF THE WORKING COOLIES IN THE SUN.

い(図3)。音楽の演奏など、遺族を慰める、というよりも元気づけるパフォーマンスがあり、銅鑼や爆竹の音が鳴り響くこともよくある。長崎の精霊流しには中国の葬式のスタイルが影響しているかも知れない。また「泣き女」という専門の職人が遺族に先立って泣き叫ぶ。葬列は賑やかに、パレードのようなイメージで大通りを進み、墓地へと向かっていく。社会的地位が高ければ、その隊列は一段と長くなる。これが江南地方ともなると、網の目に張り巡らされた水路が道路代わりだから、何もかも船頼りだが、葬列も小型の民船をたくさん使って進んでいく。葬列は、中国では社会性のある一大イベントである。

グルテンの粉末で作ったスイーツを街から街へと売り歩くのは行商人である(図4)。行商は、「攤販」と並んで大衆の主要な「マーケット」である。正月用品、果物、野菜や魚貝、籠や箒、油、キリギリス、その他の雑貨を売る。軽い売り物であると、あるいは高く積み上げ、あるいは横に、前後に広げてぶら下げ、上手にバランスをとって売り歩く。行商人は街の軽業師でもある。

一輪車(図5)については、後藤朝太郎『最新支那旅行案内』(1938、黄河書院)が、「山東、河北、又江蘇の各地には推車即ち一輪車があって、これは狭い畦道や路次の間などを自由に行かれる最も便利な車である。……最も幼稚な原始的の構造に見えてゐるけれども、……これが大変調法なものとなつてゐる。と云うのは、中央に車輪があって、両翼に荷物を載せたり、人を乗せたりせられる様な装置にできてゐる。……支那苦力の推車を操縦することの巧みなものには驚くばかりである」と解説している。確かに両翼に人を6人乗せて都会のストリートを走ったり、家財道具一式と家族とを運んだりしている記録写真を多く目にする。日本の一輪車とは、構造も用途もかなり異なる。



図7 珍寶奇器を陳列せる骨董店
THE CURIOSITY SHOP WHERE EXHIBITED MANY CURIOUS AND VALUABLE ARTICLES.



図8 睦まじき家族の外出
THE GOING OUT OF SWEET FAMILY.



図9 建築に忙しい大工
PICTURE OF THE CARPENTER BUILDING A HOUSE.



図10 穀類の野積
A FIELD PILE OF CEREALS.

刈入近き高粱畑
KAOLING FIELD BEFORE THE HARVEST.